

平成17年3月15日

第6回「ユーザーの視点に立った道路工事マネジメントの改善委員会」資料
に関する意見

路上工事時間について

H16年度も路上工事時間は大幅に縮減されている。これが工夫による縮減であれば良いが、時間を減らすために交通への影響が大きい工事を行うようなことにならないように留意しておくべき。

路上工事情報のリアルタイム化について

これまでも路上工事情報をVICS等へ提供するチャンネルはあったと思うが、路上工事情報提供をリアルタイム化することにより、提供できる情報がより新鮮なものになったことが重要である。その点をアピールすべきである。

「問合せ番号」「不人気投票」について

「問合せ番号」、「不人気投票」については、利用者の視点に立った施策としての第一歩を踏み出したことは評価できる。しかし、最初の一步に過ぎないとも言える。

ホームページに投票結果を掲載するだけでは、単なるガス抜きと誤解される。今後、不満の多い工事について、客観的な渋滞データ等と照らし合わせ、投票結果の分析 工事実施方法の改善 客観的検証 効果について道路利用者へフィードバックといった、PDCA(Plan - Do - Check - Action) をしっかりやっていくことが必要。

例えば、投票数の多かった工事について、国土交通省でプローブカーを走らせて実際の渋滞状況、通過所要時間の増大、走行速度の低下等を確認し、客観的なデータに基づく改善効果等の調査結果とコメントをホームページに載せることなどの検討も必要。すぐに改善策を実施し効果を評価しなくとも、とりあえず渋滞状況を確認したことだけでもユーザーにフィードバックすると、印象がかなり違ってくる。

一部のメディアで「経費の無駄遣い」というような論調が見られるが、これについては、今後、PDCAサイクルを実践し、道路ユーザーに明確な答えを返していくことにより、見方を変えてもらうよう努力すべき。

投票結果公表のページから、直接、各工事の改善内容が見られるようにすべき。また、投票結果のページに、各工事実施者の「問い合わせ窓口」のリンクを張ってはどうか。

路上工事縮減に向けた新技術・新工法について

新技術や新工法は意外と知られていないので、PRを行うべきである。舗装の中温化技術などは、少なくとも理系のドライバーには興味を持ってもらえそうだ。

以上